



「生きている」いまこの瞬間を大切に

元日に能登半島を襲った大地震。被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。一週間を過ぎても救助活動が続いています。極寒の中の避難生活もいつまで続くのか不安が募るばかりだと思えます。中学3年生が、教科書も何もなく、受験に向け全く勉強できないとつぶやく映像をみました。ニュース映像を見るたびに、心が締め付けられる思いになります。

生徒のみなさんが生まれて間もない頃、2011年3月11日に東日本大震災が起きました。その16年前、1995年1月17日は、兵庫県南部地震、いわゆる阪神・淡路大震災が起きました。2016年4月14日～の熊本地震は、記憶にある人もいるかもしれません。私たちが恐れる南海トラフ巨大地震は、約100年周期で起こっていることから、いつ起こってもおかしくないと言われています。

自然を前に、私たちは無力感を拭えないときがあります。そんなときは、逃げ出したいくなるし、あきらめたくなるし、どうしていいかわからなくなり、とても不安になります。そんな気持ちや厳しい現実を乗り越えられるときがあるとしたら、そこにはきっと仲間がいます。「支え合える仲間」。あなたが、誰からも支えられ、誰をも支える人でいられるならば、不安から解放され、これからの人生を、社会を生き抜くことができます。日々の生活の中で、支えること、支えられることについて考え行動しましょう。また、震災に立ち向かっている方に対し、できる支援は何かを考え行動し、自分にも起こるであろう震災への備えを仲間とともに考え行動しましょう。



「生きている」ということは、不安なことが次から次へと向かってきますから、その不安に縛られ身動きが取れなくなることもあります。しかし、誰にでもそれを乗り越える力と仲間がいることも事実です。そのことに気づき感じることができれば、笑顔は守られます。



あなたが周りの誰もが笑顔でいられるように考え行動できたなら、あなたもきっと笑顔です。いまこそ、「生きている」この瞬間を大切にしながら、あなたの歩幅とペースで前へ進み、笑顔を増やしましょう。

被災地に少しでも早く笑顔が戻りますように。

中学生が市政を考え創る「ジュニア会議」

1月5日（金）、和歌山市議会議場を舞台に「明日の和歌山市を築くジュニア会議」が開催されました。これは、和歌山市の中学生が、和歌山市をよく見つめ、快適で住みよいまちづくりについて考え、これからの和歌山市を創るための希望等を届ける場で、市長、副市長、市議会議長、市議会議員の方々、市教育長らが、中学生の意見を聴いてくださいました。

本校からは、生徒会長の芝咲郁さんと生徒会会計の饒平名暁佑さんが参加しました。二人は、和歌山市の人口減少の現状とその要因と考えられることを踏まえ、今後の対応策や活性化について意見を述べました。少し緊張気味でしたが、パワーポイントを利用し、表やグラフを示しながらわかりやすく説明しました。あとで、市長と議長からとてもよかったとコメントをいただきました。



<保護者のみなさまへ>

3学期は今年度のまとめとなります。生徒が、少しでも前へ進めるよう教職員一丸となって努めてまいります。子どもが、いま持っている力を発揮できるよう、ご家庭でも励ましてくださると幸いです。今年もよろしくお祈りいたします。